

森林動物研究センターシンポジウム〔2月15日(土)〕

－ 開催結果報告 －

1 来場者数

188名

2 アンケート調査の結果（一部抜粋）

（ご意見、ご感想より）

- 被害が深刻な但馬での開催をしては？実態調査ツアーを兼ねて・・・
- オオカミの導入について、アメリカのイエローストーン国立公園のことが引き合いに出されることが多いが、ドイツ（日本と人口密集地と生息地などの諸条件が似ているとされる）でのオオカミ再導入の事例についてはどう考えておられるのか知りたい。
横山研究員は子どもがオオカミに襲われる危険があるとのことですが、世界的にそのような例はあるのでしょうか。※以前に見たオオカミのTV番組では、オオカミは道路（舗装された道）を恐れて近寄らないとの事でしたが、これについてはどういうことなのかを研鑽してほしいです。
- 非常に参考になりました。今後の施策に活用していきたい。シカの皮の説明がありましたが、剣道の小手や弓道の道具などに柔らかさとかでよく使用されています。
- 座席通路狭すぎ、暖房調整暑すぎ、会場の検討必要。
- 捕獲と合わせて、エサにホルモン剤を入れて配布する方法はどうか、狂犬病対策で、ヨーロッパでアカギツネに経口ワクチンを配布したことはあったが、捕獲後の殺処分が大変そうである。
- とても丁寧な説明で分かりやすかった。映像には力がある。全体としてとてもいいシンポでした。

（次回取り上げてほしい内容）

- オオカミ、カワウソなど、動物の導入—良し悪しあると思いますが、それも含めもっと聞いてみたいです。
- シカ肉を使った料理（ジビエ）をセットにしたシンポを開催してください。
- カワウソ、オオカミの復活について、いつかはやってほしいと思う。淡路島が狼が生息するのに可能なちょうどくらいの面積であるらしいので、淡路島でオオカミの導入をぜひ。
- 県境連携をテーマに。他県からの参加もできるような企画はどうでしょうか？いかにセンターの取組みが先進的かが示されるのではないのでしょうか。
各県（岡山、鳥取、京都）が互いに学びあうことが重要と思います。
- 捕獲（わな）の有効な設置方法や対策などを具体的に教えてほしい
- 昔の環境に戻すためのトキやアホウドリなどの動物の導入について

（各話題に対するコメント）

1. 横山研究員

- 歴史を振り返っての説明、大変よく分かりました。面白かったです。
- もう少しポイントが絞られていたらよかったのかな・・・と思った
- 順を追って現状に至るまでを説明していただき、とても理解し易く、自分の認識の正誤を確かめやすかった

です。歴史から学び、対策を考えることは基本ではありますが、やはりもっともベストであると感じました

2. 藤木研究員

- 現状把握の大切さを知りました。現状を踏まえた今後の展開を期待します。
- 猟場の山も下草が無く、捕獲が必要な地域であるとの認識が強くなりました。
- ・・・だからどうするのか。そのあたりまでが聞きたい。
- 日本の造林事業の歴史とリンクしていると思います。

3. 坂田研究員

- 産(企業)・官(行政)・住民のタテ関係は、とても気づいていきにくいとばかり思っていたが、仲介方法や技術をうまく活用することで三本の矢となることが分かりました。
- 産官住民だけでなく、都会の人も巻き込む仕掛けづくりが必要
- センター研究のミッションが明確であり、きちんと役割が果たされていた。

4. 松本研究技術専門員

- 成果の報告のまとめた冊子をぜひ作成していただきたい。集落への啓発に活用したい。
- 身近な問題なのでよく分かった。大変有益でした。
- シカ、イノシシの捕獲の仕方について、問題点等の項目が分かり、よかった。シカを捕獲するときに参考にしたい。
- 地域の協力はいいのだが、その中に猟友会等はどのように関わっているのか？

5. パネルディスカッション

- 色々な意見が聞け、多方面に興味を持つことが出来ました。もっと掘り下げて色々な話聞かせてもらいたいと思いました。
- テンポの良い進行と歯切れの良い回答が印象に残りました。
- 説明が分かりやすかった。もう少し時間が取れればなおよいと思う。